

在宅医療・介護連携ノート

「よこすかリンクパスポート」改訂版の作成

よこすかリンクパスポートは、在宅療養者と家族の意向を尊重しながらよりよい在宅医療を提供するために、かかりつけ医・医療介護関係職種が、医療介護の状況、緊急時の対応と連絡先等の情報を共有するためのツールとして活用するものです。平成25年度に、勇美財団の助成により横須賀市医師会が作成しましたが、今年度、横須賀市の委託事業として新しい要素を加えて改訂版を作成することになりました。関係多職種から構成する検討委員会で「使いやすく役に立つものを」と協議し、活用の目的を確認しながら改訂版を作成しました。形態は従来と同じポケットファイル方式ですが、主な改定のポイントは以下の3つです。

- A4版で見つけやすい黄色のファイルを利用
- 緊急連絡先を確認する欄を裏表紙に配置
- よこすかリンクパスポートの所有を知らせるために冷蔵庫に貼るステッカーを同時発行
近日中に発行予定です。



かもめ広場だより VOL.9

2018年3月発行
一般社団法人横須賀市医師会
在宅医療推進連携拠点「かもめ広場」
〒238-0005 神奈川県横須賀市新港町1-11
☎ 046-824-6430

台湾在宅医療学会視察団の来訪

平成30年2月7日(水)台湾在宅医療学会視察団の訪問がありました。台湾の医師・看護師等27名が、日本における在宅医療・多職種連携等の研修視察の一環として日本医師会の推薦により横須賀市医師会に来訪しました。横須賀市と横須賀市医師会の取り組みの紹介、台日混成グループによる情報交換が行われました。日本を追う形で急激な高齢化が進む台湾の状況を踏まえて活発な質疑応答や意見交換がなされました。通訳を通してのやり取りではありましたが、同じ任務に携わる職種とあって、理解しあうことに困難はありませんでした。友好ムードの中、お互いに大きな課題に果敢に取り組むことを確認して終了しました。



台湾在宅医療学会のシンボルのポーズ「おうちで」で集合写真

かもめのつばやき

平成30年1月28日(日)、市の主催・医師会の後援による在宅療養シンポジウムが開催されました。今年は「住みなれた街で最期まで暮らすために」をテーマとして、多くの市民が参加しました。

今回のシンポジウムにおける医師会の大きな役割として、在宅医療を実施している54診療所を公開して、その内の11診療所が壇上から1分間スピーチを行いました。

「これは画期的なことだ」とつばやきながら翌29日に診療所に出てみると、さっそく膵臓癌で抗がん剤治療中のAさんの奥さんから、受診希望の問い合わせがありました。まだ、大学病院にも通っていますが、ご夫婦で来院され、「通えなくなったら在宅医療をお願いしたい。そして最期まで見てほしい。」という希望がありました。

病気は膵臓癌・腹膜播種による腸閉塞で人工肛門が造設されていました。今日は腹痛があり、急遽来院されたので、オピオイド鎮痛剤を処方し、いつでも訪問診療を開始できると伝えました。

Aさんはリビングウィルの事も考えられていたのか、帰り際に「今やっている抗がん治療を断ってもいいですかね?」と言われたので、「治療がつかったらやめるのも一つの選択だと思います」と答えました。リビングウィル表明を市民が認識し、普及していけば、在宅看取りが地域の文化になって行くのではないのでしょうか。

文責 野村内科クリニック 院長 野村 良彦

『ちょっと一息! みんなあつまれフォーラム』の開催

医療・介護職の疲労・燃えつきの問題は古くて新しい課題です。在宅医療の推進には「医療・介護職の元気が必須」と考え、医療・介護職の疲れを癒し、元気を取り戻すことを目的として、平成30年2月17日(土)に三浦半島隣接地区在宅医療多職種連携研修会を開催しました。

- ★「疲れを持ち寄り、癒しを味わうランチトーク」
鎌倉凜林の幸福弁当を食べながら千場先生と阿瀬川先生よるトーク
- ★「アロマセラピーによるリラクゼーションの講演と実習」
アロマセラピストの所澤いづみ氏による講演とハンドマッサージを体験
- ★「心を探る音楽療法」
音楽療法士の吉原 奈美氏による講演と演習

それぞれの思いを共有しながら、自らを癒し、仲間をも癒す方法を体験学習しました。

「在宅療養ブロック連携拠点」の活動を ご紹介します！

北ブロック連携拠点

聖ヨゼフ病院 地域連携室 ☎824-8071

幹事:三輪医院 千場 純/金成医院 金成 正浩/秋澤医院 秋澤 暢達/汐入ばくクリニック 朴 正晃

- 【北ブロック幹事は、千場純先生・金成正浩先生・聖ヨゼフ病院で運営していますが、平成29年12月より秋澤暢達先生・朴正晃先生にも加わって頂きました】
- ・北ブロック内にも訪問診療を行っている診療所の先生方は数多くいらっしゃいますが、先生方によって取り組むスタンスは様々です。全ての先生方に同じような対応をお願いすることは出来ないと思いますが、それぞれの先生が出来る範囲で訪問診療を行うことが出来るように働きかけていきたいと思っております。
 - ・在宅医療を取り巻く様々な職種、訪問看護・ケアマネ・ヘルパー・薬剤師・民生委員など、多くの職種の方にも参加して頂き、情報共有を行っています。
 - ・連携拠点である聖ヨゼフ病院では、在宅医療を支援するため、在宅患者さんの入院の受入を行っています。具合が悪いけれど救急病院に行くほどではないケースや、家族の負担を少しでも軽減したいというケースの入院も受け入れています。

中央ブロック連携拠点

衣笠病院 相談・支援センター ☎852-1182

幹事:横須賀中央診療所 春田 明郎/上町在宅クリニック 渡邊 誠一/
ナーブケア・在宅クリニック 落合 周太郎/生協衣笠診療所 岡田 哲郎

〈地域の特性と活動のねらい〉

三浦半島の中心部にある中央ブロックは、横須賀共済病院、うわまち病院、衣笠病院があり急性期医療から回復期、ホスピスまで総合的に医療が受けられるだけでなく、在宅、施設での生活を多職種でサポートできる体制を整えている地域です。この多職種で支える体制を強化し、24時間を担う医師、看護師の負担を軽減するだけでなく、住み慣れた街で最後まで過ごす事ができるようにすることが目標の一つです。

〈特徴的な活動〉

中央ブロックは医療、介護の連携を大切に、希望する場所で生活できるよう、その人らしい生活ができるオーダーメイドのサービス調整を心がけています。切れ目のないスムーズな連携を行うことで、人の手が途切れてしまう不安を解消し、状況に応じた対応を行うことが出来ると考えています。

〈自慢したい事〉

今年度の取り組みとして、入院から退院、また在宅までの流れを一連的に取り上げ、その過程で起こりうる様々な課題や問題を実例として、多職種間で共有と検討をしてみました。

〈これから取り組んでみたいこと〉

今後は、24時間在宅医療でなければいけないと考えていた在宅医療のイメージを払拭すべく、地域医療を担う先生方と、より多くの職種の方々と連携して中央ブロック全体で24時間を支える仕組みを構築していきたいと思っております。

在宅療養ブロック連携拠点とは

横須賀市は、平成25年度に市内を4区分し、在宅療養ブロック連携拠点を設置しました。これは、地域の特性を踏まえて①診療所の相互協力体制の構築 ②関係多職種の連携 ③病診連携などを具体的に推進するための拠点です。横須賀市医師会は在宅療養センター連携拠点として、定期的にブロック連携拠点情報交換会を開催しています。設置から4年余を経過し、それぞれのブロック拠点が特徴的な活動を展開していますので、その活動をご紹介します。

東ブロック連携拠点

よこすか浦賀病院地域連携室 ☎841-1032

幹事:三屋内科 三屋 公紀/湘南山手つちだクリニック 土田 匡明/小磯診療所 磯崎 哲男

〈地域の特性と活動のねらい〉

東地区では病院がよこすか浦賀病院1件です。訪問診療を積極的に行っている3人の幹事の先生方と、1人でも多くの先生方にブロック会議に参加して頂けるよう会議の企画をしています。

〈特徴的な活動〉

H27年9月より「黒船村」を立ち上げました。在宅医探し、臨時代診医探し、在宅関連でのアドバイスが欲しい方の連絡ツールとして、「かもめネット」を病院と幹事の先生方との連絡・情報の共有に活用しています。

〈自慢したいこと〉

H28年度より東地区の開業医の先生方に関連のあるテーマについて講義いただき、ブロック会議の企画側に参加して頂いています。会議後には参加頂いた先生方と懇親会を開き親睦を深めています。

〈これから取り組んでみたいこと〉

「黒船村」に新たな開業医の先生方を招待して、ネットワークを広げられればと思います。

西南ブロック連携拠点

横須賀市立市民病院地域医療連携室 ☎858-1821

幹事:ながいクリニック 小川 伸郎/野村内科クリニック 野村 良彦/
嘉山医院 嘉山 保美/秋谷潮かぜ診療所 西村 京子

海と緑に包まれてキャベツ畑みかん畑があり、農家の方漁師の方もいて、アットホームな地域です。地元愛も強く、地域の先生は、患者さんから慕われており、「隣のじいちゃんが、家で〇〇先生に看取ってもらったからよ。うちもそうしたいんだ。」と言われることもしばしばあります。

在宅医療が推進される中、少しでも在宅医を増やし、市民が安心して在宅医療を受けることができるよう様々な取り組みを行っています。そのひとつとして昨年、「在宅医検索ネットワーク」を開始しました。これは在宅医療を行っていない開業医から、在宅医の紹介を依頼する仕組みです。患者さんが在宅医療を希望された時、横須賀市立市民病院に連絡をいただき、その後西南ブロックの幹事医師が居住地、重症度を考慮して、地元の医師に在宅医療をお願いする流れになっています。医師から医師に依頼がかかるのでスムーズに在宅医が決定します。横須賀市立市民病院に通院や入院をしている患者さんも利用しています。

また少人数の医師が集まり在宅医療の悩みやノウハウを伝達しあう「在宅医療相談会」、担当医が学会や旅行などで不在の時に、助け合う「在宅助け合いの会」も行っています。

今後は、在宅医療で困ったことを24時間で相談を受けていく「在宅医相談電話（ホットライン）」の設置を計画しています。

文責 横須賀市立市民病院 富岡敏也

